



# 決算説明会

## 平成20年3月期 (第26期)

平成20年 5月 28日(水)

【4570】

株式会社 免疫生物研究所

代表取締役社長 清藤 勉



## 平成20年3月期 (第26期)

### 1. 決算内容について



# 平成20年3月期総括

## ■【研究用試薬関連事業】

- 国立大学等の法人化、製薬企業の合併などによる環境悪化⇒減収へ
- 新製品46品目(キット2, 抗体43, その他1)

## ■【実験動物関連事業】

- 製薬企業合併の影響 ⇒ 減収へ
- 初の自社開発品を農林水産省に申請

## ■【医薬関連事業】

- 抗ヒトオステオポンチン抗体 (2K1)  
: 契約の変更 ⇒ 今期の受領額は1/2

## ■【その他事業】

- クレアチンを水溶化した飲料水のサンプル供給



# 決算実績

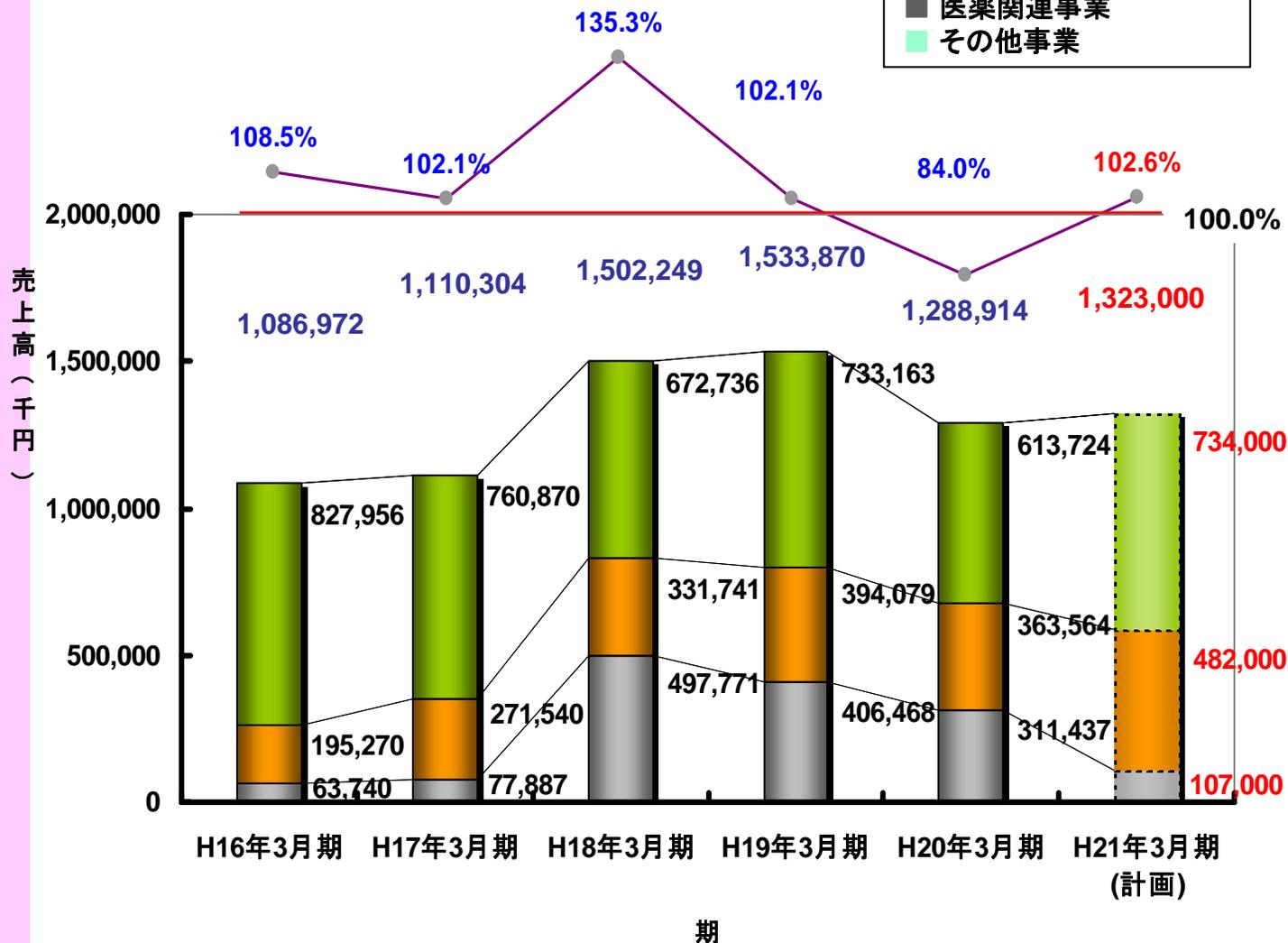
(千円)

	H20年3月期 (第26期)	H19年3月期 (第25期)	前期比増減
売上高	1,288,914	1,533,870	▲ 244,956
			▲ 16.0%
営業利益	▲ 210,367	76,065	▲ 286,432
			-
経常利益	▲ 208,417	40,618	▲ 249,035
			-
当期純利益	▲ 236,162	105,382	▲ 341,544
			-

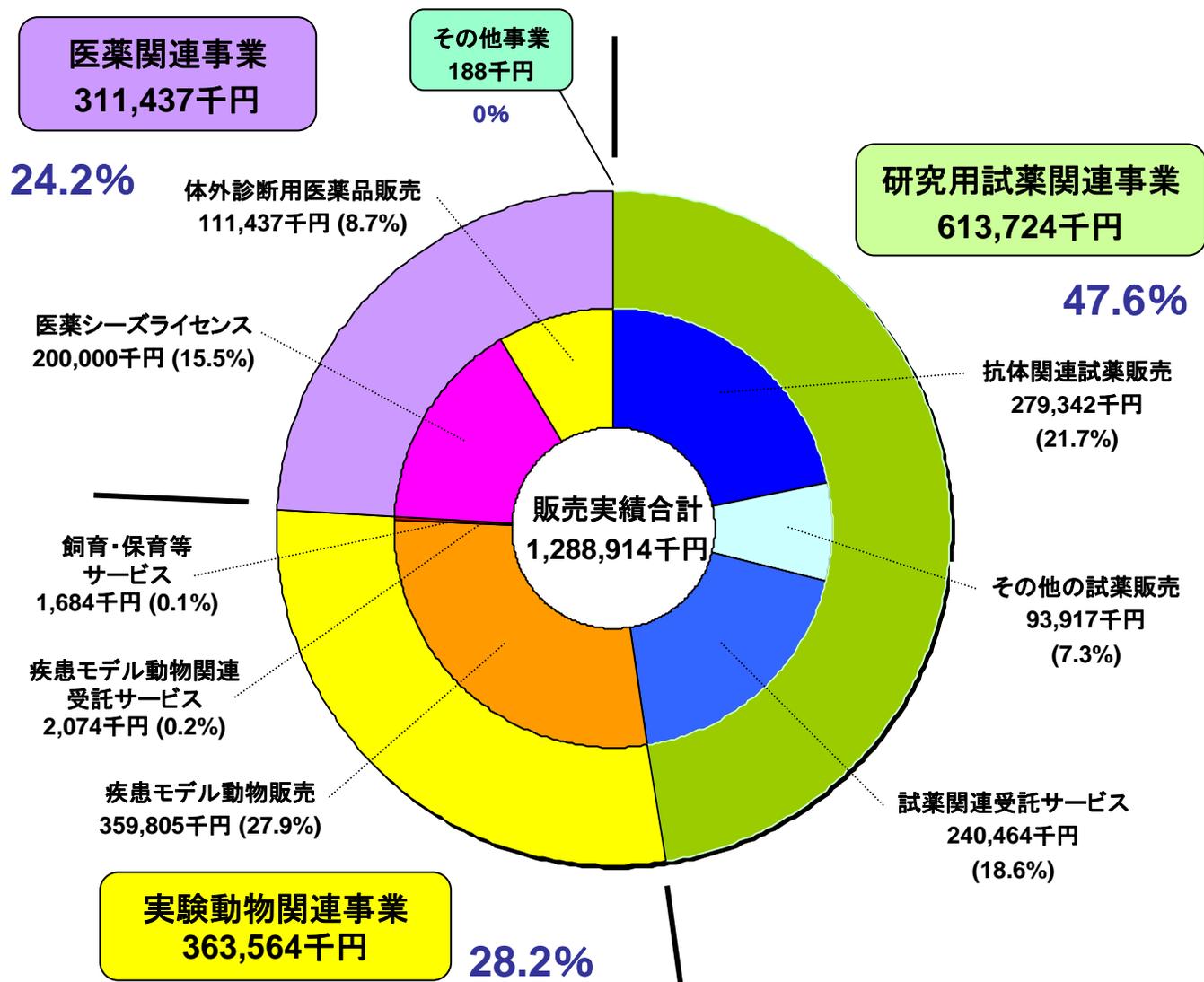


# 売上高推移

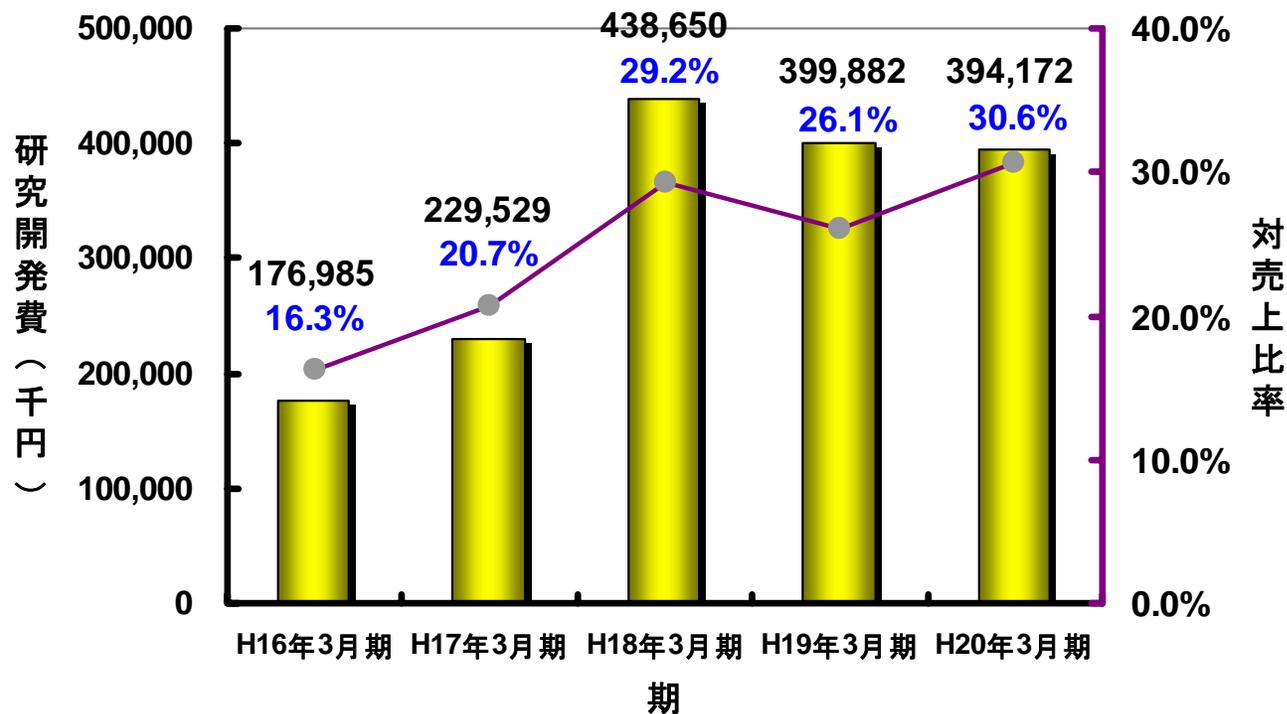
- 対前年比率
- 研究用試薬関連事業
- 実験動物関連事業
- 医薬関連事業
- その他事業



# セグメント別売上



# 研究開発費





# 貸借対照表

(千円)

	平成20年 3月末	平成19年 3月末	増減額		平成20年 3月末	平成19年 3月末	増減額
(資産の部)				(負債の部)			
流動資産	1,330,859	1,879,212	▲ 548,353	流動負債	182,065	255,859	▲ 73,793
現金及び預金	312,242	1,299,029	▲ 986,787				
固定資産	1,832,241	1,609,360	222,881	固定負債	89,015	107,136	▲ 18,120
有形固定資産	1,376,865	1,470,931	▲ 94,065	負債合計	271,081	362,996	▲ 91,914
無形固定資産	64,704	87,602	▲ 22,898	(純資産の部)			
投資その他の資産	390,671	50,826	339,845	資本金	1,571,810	1,569,500	2,310
				資本剰余金	1,416,578	1,414,268	2,310
				利益剰余金	▲ 94,353	141,808	▲ 236,162
				評価・換算差額等	▲ 2,015	-	▲ 2,015
				純資産合計	2,892,018	3,125,576	▲ 233,557
資産合計	3,163,100	3,488,572	▲ 325,472	負債・純資産合計	3,163,100	3,488,572	▲ 325,472

# キャッシュ・フロー

(千円)

	H20年3月期 (第26期)	H19年3月期 (第25期)
営業活動による キャッシュ・フロー	▲ 377,284	171,506
投資活動による キャッシュ・フロー	▲ 395,335	▲ 226,403
財務活動による キャッシュ・フロー	▲ 15,470	480,043
現金及び現金同等物 の期末残高	500,557	1,289,004

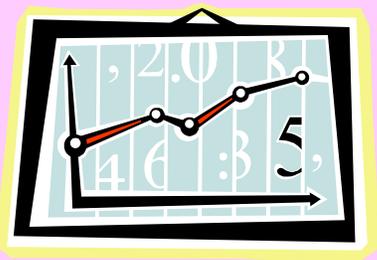


# 業績予想

(千円)

	H21年3月期 (第27期) 予想	H20年3月期 (第26期) 実績	前期比増減
売上高	1,323,000	1,288,914	+ 34,085
			+ 2.6%
営業利益	▲ 260,000	▲ 210,367	▲ 49,632
			-
経常利益	▲ 270,000	▲ 208,417	▲ 61,582
			-
当期純利益	▲ 277,000	▲ 236,162	▲ 40,837
			-

研究用試薬関連事業及び実験動物関連事業が、引き続き厳しい環境にあることに加え、契約料の一部改定の影響による通期業績予想を鑑み、期末配当は無配を計画しております。



## 2. 経営方針について

平成21年3月期 (第27期)



# 主要な経営課題

- 事業効率の向上
- 【研究用試薬関連事業/ 医薬関連事業】
  - パイプラインの増加
    - 差別化できる付加価値の高い自社製品の開発
    - 社外：
      - ・アカデミアとの研究強化
      - ・他企業からの新規技術導入
    - 社内：
      - ・研究所内組織に対する改革
- 【実験動物関連事業】
  - 自社開発品第一号の国内発売
  - 自社開発品の海外導出
  - パイプラインの増加
- 【医薬関連事業】
  - 経常的な導出
- 【その他事業】
  - 水溶性クレアチン「アズノン」の海外販売



# 組織再編成による効率的経営

- 取締役8名から4名へ減員
  - ⇒ 迅速な決議執行
- 執行役員制度の導入
  - ⇒ 迅速な業務執行
- 研究開発項目の絞り込み
  - ⇒ 集中化による早期のシーズ発掘
- 製造要員の専用効率化
  - ⇒ 迅速な製品製造



# パイプライン状況 (医薬品)

## ■ 抗オステオポンチン抗体

### ■ 関節リウマチ治療薬

- Phase I: 患者における効果と忍容性を確認する臨床試験を実施中 (アステラス製薬)

### ■ 診断薬

- 診断薬として必要なデータを収集中 (診断薬メーカー)

## ■ 抗アミロイドβ抗体

### ■ アルツハイマー型認知症治療薬

- ヒト化抗体研究開発中 (Intellect Neurosciences)

## ■ 悪性中皮腫 (アスベスト中皮腫)

### ■ 診断薬 (順天堂大学 医学部)

- 研究型検診を実施中

### ■ 体内診断薬 (複数の大学医学部)

## ■ その他

### ■ がん治療薬

- 受容体を中心に数品目、研究開発中

### ■ 免疫関連診断薬・治療薬

- 研究開発中



# パイプライン状況(実験動物)

## ■【炎症免疫領域】

■ アトピー性皮膚炎モデル

⇒ 農林水産省に申請中

■ ヒトOsteopontin N-Half ノックイン  
マウス ⇒ 開発中

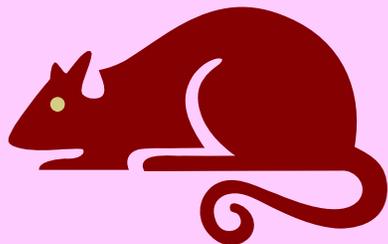
## ■【中枢神経系領域】

■ アルツハイマー型認知症モデルマウス  
⇒ 開発中

■ アルツハイマー型認知症関連トランス  
ジェニックマウス ⇒ 開発中

## ■【その他の領域】

■ 数品目 ⇒ 開発中



# 中皮腫

## ■ 中皮腫、発症前診断に道

\*順天堂大チームが独自検査法  
(2008年5月2日 読売新聞)

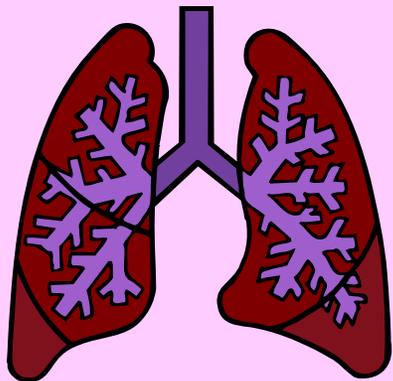
### \*順天堂大チーム

- ▶ 順天堂大
- ▶ 東京土建  
国民健康保険組合
- ▶ (財)東京保健会  
病態生理研究所
- ▶ (独)放射線医学総合  
研究所
- ▶ (株)免疫生物研究所

- \*順天堂大チームが独自の検査法により実施している大規模検診\*注)で、発症が濃厚に疑われる人が見つかった。
- 検出量が多かった80人には、同大学の専門外来での受診を呼びかけ、たんぱく質の変動を追跡調査。
- その結果、一部の患者で、検出量が半年で4倍に急増していることが判明。発症が濃厚とみられる。

### \*注) 大規模検診:

2007年2月から、アスベストに関連する建設関係の仕事に携わった経験がある約3万人を対象に、5年計画で行う研究型検診。



# NCヘアレスマウス



NCヘアレス  
マウス

NCマウス

- 東京都臨床医学総合研究所および奈良先端科学技術大学院大学が、遺伝子改変によりNCマウスの無毛化に成功
- 上記各社と契約。飼育・繁殖・供給・交配・販売を行う権利を取得
- 農林水産省へ申請中。ヒアリングおよび査察終了。
- 5年後ピーク時で2億円/年の売上を計画

## 【製品概要】

和名 : 「NCヘアレスマウス」  
英語名 : 「NC hairless mouse」

## 注) NCマウス(NC/Ngaマウス)

- 現在アトピー性皮膚炎の自然発症マウスとして確立されており、ヒトのアトピー性皮膚炎に最も近いモデルとされています。
- 本マウスは有毛であるために、試験前には毛を剃る必要があります。この行為により皮膚炎を起こしてしまうことがあるという欠点があります。



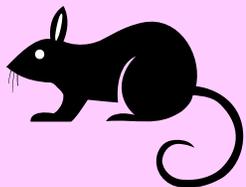


# 技術導入



## ■ ネオシルク

- トランスジェニックカイコによるタンパク質製造技術：繭を出す器官に目的タンパク質を作らせる技術
- 繭には目的タンパク質以外の夾雑蛋白が少なくタンパク質の精製が容易となる点、高濃度の目的タンパク質が低コストで得られる点などが利点
- 研究用・診断用に有用なタンパク質、抗体の生産開発中



## ■ キリンファーマ

- KMマウスを用いてターゲットヒト抗体を作製
- 治療用医薬品への応用。1抗体作製し評価中



## ■ セルリムーバー

- 異種動物の土台となる組織や器官を作製する技術およびそれらをヒトへの移植や再生に応用する技術
- 研究用試薬事業での商品販売による収益を計画

# NEDO Project

アルツハイマー病総合診断体系実用化プロジェクト：  
根本治療の実現に向けて(NEDO)(2007-2011)

■ 参加企業 全国33臨床研究施設

## ■ 研究の目的

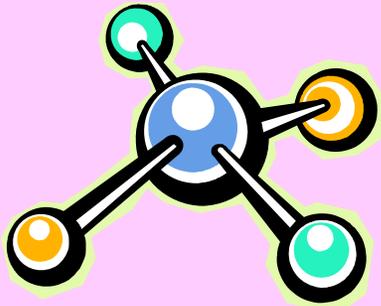
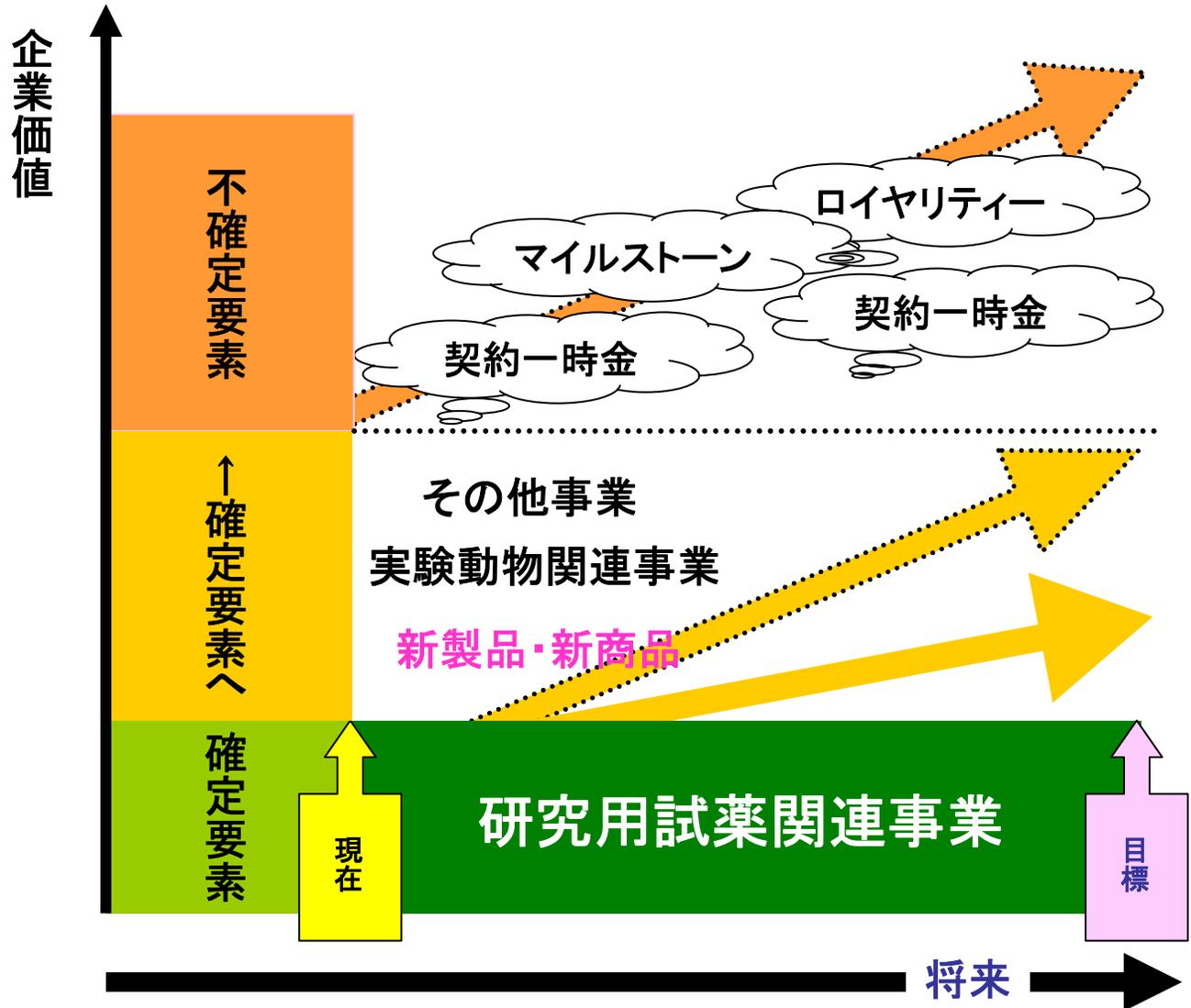
- 画像診断を中心としたAD（アルツハイマー病）発症の客観指標の標準化を行い、AD根本治療薬の早期創出と治験の加速化を達成する。
- 文科省「先端脳プロジェクト」で得られた成果を利用して、体液バイオマーカー(生化学マーカー)の検証、実用化を加速し、画像・生化学診断を融合したAD総合診断体系の実用化を目指す。

## ■ 研究の内容

- 研究開発項目①  
「AD臨床評価の標準化研究 (J-ADNI 臨床研究)」
- 研究開発項目②  
「J-ADNI 画像解析ソフトウェア開発研究」
- 研究開発項目③  
「AD、MCI診断マーカーに関する技術開発」



# 目指すビジネスモデル



「抗体」を通じて、  
世界で難病に苦しむ人々が、  
1日も早く、病気を克服し、  
明るく豊かな暮らしを営めるよう  
社会に貢献いたします。



# 注意事項

本発表において提供される資料ならびに情報は、当社経営陣が現時点において入手可能な情報によって判断したものであり、不確実である情報から得られた多くの仮定や考えによって作成されております。実際の成果は、さまざまな要素によって変化するため、業績見通し、開発見通しと大きく異なる結果となり得ることをご承知置きください。

実際の業績に影響を与える要素には、国内および国際的な経済情勢、業界ならびに市場の状況、金利および通貨為替の変動、新製品上市の遅延、導出先企業における開発の進捗の遅れ、技術的進歩、競合他社による特許の獲得、国内外の政府による法規制の変更などが含まれますが、これらに限定されるものではありません。

